

盲ろう児と言葉

～ヘレンケラーを例に考える～

盲ろうって？

盲ろうとは、目(視覚)と耳(聴覚)の両方に障害を併せ持つことである。盲ろうといっても、視覚障害と聴覚障害にも広い範囲があるため人によって程度はさまざまである。また、両方の障害が先天的あるいは幼いころからある場合、どちらか片方が先天的あるいは幼いころからある場合、両方とも大人になってから現れた場合というように障害を受けた時期の違いによっても差がある。

	盲	弱視
ろう	全盲ろう	弱視ろう
難聴	盲難聴	弱視難聴

言葉の習得

盲ろう児にとって言葉の習得は困難である。特に先天性盲ろうは言葉を文字として見ることも音声として聞くことも難しい。一体どのようにして言葉を習得するのか。

盲ろうという、ヘレンケラーのことを思い出す人は少なくないだろう。ヘレンに言葉(指文字)を教えたサリバンは、言葉を教える際にヘレンの「興味のあること」について「実物に触れること」で本質的な理解を促していった。この実体験を通して楽しみながら習得するという点がポイントである。盲ろう等の障害に限らず、実体験を伴うことで理解を深めることができる。視覚、聴覚にハンデがある盲ろう児にとって、残りの触覚や嗅覚、味覚はより重要視される。言葉を示す方法が何であれ、盲ろう児の言葉の習得には実物や実体験とあわせた学習が効果的である。

言葉は必要？

ヘレンはサリバンと出会う前から独自の身振りで周囲とのコミュニケーションをとっていたという。そうすると「言葉を知らなくてもコミュニケーションが取れるのならばそれでいいのでは？」と考える人もいるかもしれない。しかし、私は盲ろう児にも言葉は必要だと考える。成長とともにコミュニティは広がっていくが、自身を理解していない初対面の人とコミュニケーションをとるにはやはり言葉を理解している必要がある。困難は多いと思われるが、本人も周囲も言葉の習得は諦めずに取り組んでほしい。



<参考文献・引用>

・盲ろう者・児の自己決定・自己管理を引き出すためのマニュアル

https://web.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/article/self_determination/report07.html

・ヘレン・ケラーが伝えたかったこと(1)私が住む世界

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/114/>

・かわいいフリー素材集 いらすとや

https://www.irasutoya.com/2013/08/blog-post_538.html